

- |  |     |  |     |
|--|-----|--|-----|
| ・伊勢湾海洋調査実習を実施<br>・オーストラリア環境スクールを実施                                     | P.1 | ・渡鹿野島で調査、発表<br>・四日市子ども科学セミナーに参加<br>・「多文化共生社会を考える」プロジェクトを開催 | P.3 |
| ・2012年度サマースクール(環境コース)を実施<br>・ゆるキャラで模擬選挙<br>・地ハトが「美し国おこし・三重」のパートナーグループに | P.2 | ・エネルギー施設を見学<br>・Mie子どもエコフェアに参加<br>・ソフトテニス部、インカレ出場          | P.4 |

## 伊勢湾海洋調査実習を実施

四日市大学は、三重大学生物資源学部所有の練習船勢水丸を共同利用した伊勢湾海洋調査実習を行った。今年度で4回目の実施となる。実習は7月23日(月)～25日(水)の2泊3日で行われ、環境情報学部生21名、支援スタッフ1名(環境情報学部卒業生)、引率教員2名の合計24名が参加した。

今回の実習では初めて伊勢湾外にも出て、外海と伊勢湾の水質の違いを調査した。伊勢湾内外の水質差は非常に大きく、透明度は4～6m(湾内)から20m(湾外)以上に変わり、海水の色も深緑色(湾内)から青色(湾外)へと大きく変化した。湾内では所々に赤潮のパッチも観察され、学生はその変化に驚いていた。今後、採取した海水のCOD(有機物量の指標)や栄養塩の分析を行い、その差を詳しく調べる予定だ。

参加した学生は、勢水丸の最新鋭の機器を用いた海洋観察を体験するとともに、朝のラジオ体操、船内清掃、食事当番、観測機器の清掃などの練習船としての活動もしっかりこなした。学生が楽しみにしている夜釣りでは小型のサバがたくさん釣れ、夜の懇親会では学生が調理したサバの塩焼きが最高のおかずとなった。



## オーストラリア環境スクールを実施

環境情報学部は、8月20日(月)～9月2日(日)の期間にUQ(University of Queensland)にて環境スクールを実施し、環境情報学部の学生14名が参加し、環境情報学部の新田義孝教授と千葉賢教授が交代で引率した。

UQ内の教室ではCleaner Productionと呼ばれる省エネ・省資源に関する授業や、環境保護地域(アボリジニ保護を含む)の管理方法に関する授業、二酸化炭素排出権取引に関する授業などが行われた。また、野外研修ではローガン市の廃棄物埋立場の見学、プリズベン川支流の環境調査、ユーカリの植樹活動の支援、淡水化施設見学、ゼロエMISSIONのゼラチン工場の見学などを行った。北ストラドブローク島の観光では、雄大な景観や野生動物との出会いを楽しんだ。英語研修では、習熟レベルの異なる学生を考慮したグループ学習や地域情報を満載した教材を活用したユニークな授業を受け、学生達は楽しみながら学んでいた。

参加した学生らは、「ホームステイなどから、日豪で、ものの考え方が違うことに気がついた。」「今までの自分が『小さい世界』に住んでいたことを実感した。」などと話した。

今回の環境スクールは、参加した学生らにとって、自らの将来を考える貴重な機会となったようだ。



## 2012 年度サマースクール(環境コース)を実施

サマースクールは、毎年高校生を対象に環境に触れ、学んでもらおうという取り組みで、今年も8月6日(月)、7日(火)、四日市市少年自然の家にて、1泊2日で実施された。

1日目は、午前中に水沢浄水場にて水処理の話聞き、場内を見学。終了後に少年自然の家へ向かい、自然観察会として周辺の散策と植物チェックをし、サンプル採取後、研修室にて約20種の植物名の確認を行った。

2日目は3つのグループに分けて①大門池と沢の水の水質分析(武本班)、②大門池のプランクトン調査(田中班)、③大気観測(気温、湿度、風向風速、視程)(高橋班)を行った。昼食後に田園ウォーキングに出発、近隣のふれあい牧場まで散策した。牧場到着後は牛やヤギの観察を行い、とれたてのミルクやアイスクリームを堪能した。

参加した高校生からは「2日間とても楽しかった」「色んなことが知れてよかった」など感想が聞かれた。

## ゆるキャラで模擬選挙

若者の投票率向上を目指す四日市大学の学生グループ「ツナガリ」が、7月1日(日)に四日市市内の商業施設で、気に入ったゆるキャラに投票してもらい、子ども対象の「ゆるキャラ選挙」を開いた。

ゆるキャラ選挙は、11月に控える市長選啓発のため、ツナガリの3名が子ども向けに開いたもので、候補者は市の「こにゅうどうくん」、消防本部の「ラブ(右画像)」、四日市けいりんの「フォーリン」の三体。学生たちが着ぐるみに入り、汗だくになりながら身振り手振りで愛嬌を振りまいた。

子どもたちは本番と同じ様式の投票用紙を手に、お気に入りのゆるキャラを選んでいた。1時間ほどで183票が集まり、大接戦の中、「ラブ」が67票でトップになった。知名度の高さから優勢と思われた「こにゅうどうくん」は僅差で2位だった。

ツナガリ代表の谷祐貴さん(経済学部3年)は予想以上の好反応に手応えを感じた様子で「参加した子どもたちの家族にも投票について考えてもらえれば」と話した。



## 地パトが「美し国おこし・三重」のパートナーグループに

総合政策学部の学生が中心となって活躍している、四日市大学地域パトロール(通称:地パト)が、「美し国おこし・三重」のパートナーグループとして登録された。

地パトは、大学周辺の住宅団地で、定期的に清掃をしながらパトロールを行うことで、空き巣の犯罪等の防止や、地域の美化、そして地域の方々との交流を深める活動をしている。2名の学生が2010年の秋に企画したことからはスタートした活動だが、今ではメンバーも10数名になり、活動も徐々に軌道に乗ってきている。

「美し国おこし・三重」は、三重県知事が実行委員会会長を務め、県庁に事務局がある。県内の様々な団体に取り組む活動によって、自立・持続可能で元気な地域をつくっていかうとするもので、四日市大学の地パトも、パートナーグループとして地域の方々や団体とも連携しながら、しっかりと地域づくりに取り組んでくれることを期待したい。



## 渡鹿野島で調査、発表

9月13日(木)、14日(金)、三重県南部地域活性化プロジェクトの一環で、総合政策学部の学生20名と岩崎恭典教授をはじめ、小林准教授、高田講師、友原講師の引率の教員4名が、観光業の衰退や高齢化などに悩む志摩市渡鹿野島を訪れて調査し、その結果について発表した。

初日は島内を見学し、「島の印象や長所、課題、活性化の方法」などについて議論し、翌日は発表会が行われ、志摩市長、県南部地域活性化局次長、地域の方20名が参加した。学生たちからは「空き家を転用し、安宿として提供したり、若い芸術家などを養成するために貸し出す」、「タックス・ヘイヴンの島とする」など、「持続可能性」、「自由の島」を目標とした活性化案が次々と出された。発表会の最後には、市長や地域の方々から感謝と評価の言葉をいただいた。



## 四日市こども科学セミナーに参加

8月8日(水)に四日市文化会館で行われた「四日市こども科学セミナー」に環境情報学部の学生8名がアシスタントとして参加した。このイベントは四日市市教育委員会が主催し、子どもたちに理科の楽しさや宇宙の不思議さを伝えることを目的としている。

当日は、午前「ものづくりのまち四日市」と題して、コンビナートの企業群がブースを展示し、そこでわかりやすい実験を行い、子どもたちを楽しませた。午後からはJAXA(宇宙航空研究開発機構)の平林久先生による宇宙クイズが行われ、プロのナレーターによる解説も加わり、多数集まった子どもたちを大いに盛り上げた。子どもたちからの質問は専門家も答えにくい「宇宙の不思議さ」に迫ったものが多く、また、質問の多さに時間内には応じられないほどの状況だった。

このセミナーは、今年度が第1回目で、四日市市は長期的に続ける計画だ。



## 「多文化共生社会を考える」プロジェクトを開催

8月3日(金)、「多文化共生社会を考える」プロジェクトの第1弾として参加者の勉強会を開催した。このプロジェクトは、「多文化共生社会」に対する意識向上を目的とし、文化背景の異なる人々が同じ社会に生きることに對して、それぞれの意見や経験を出し合って議論を進めていくもの。

今回は参加者同士のアイスブレイクを兼ねて、チームごとの自己紹介や模擬ディスカッションを実施し、コーディネーターである岩崎恭典教授(総合政策学部)のレクチャーを受けた。

参加者からは、「日本のごみの分別は細かくて、留学生は困惑する。」「日本人は授業で先生に当てられてから発言するが、留学生は当てられてないのに発言する。」など興味深い意見が出された。岩崎教授は「全員から熱心な意見が得られたことで今日の最大の目的は達成できた。次につなげて欲しい。」とコメントした。



# エネルギー施設を見学

9月6日(木)、7日(金)に環境情報学部と経済学部、四日市大学エネルギー環境教育研究会の総勢13名が中部原子力懇談会三重支部の協力によりエネルギー施設を見学した。

初日は中部電力(株)電力技術研究所にて音カメラ、海水交換型防波堤、スマートハウスを見学した後、(株)コーガイソトープにて滅菌処理を行うコバルト60を見学した。

翌日はDINS堺RAC事業所で木質建設廃材を原料とするバイオエタノールを作り、自動車燃料として販売する工場を見学。バイオエタノールというとトウモロコシやサトウキビが主に連想されるが、国内ではそれらが大量に採れないため建設廃材を有効利用し、ユニークさと経済性を狙う。

次に訪れた原子燃料工業(株)熊取事業所では、電子線照射装置による滅菌処理や原子力発電所で使用される燃料集合体の製造プロセスを見学した。ここでは、使用前の原子燃料はさほど危険ではなく、しかし厳重に管理されていることを学んだ。

## Mie こどもエコフェアに参加

よっかだいエコ活動のメンバーが7月21日(土)、22日(日)の2日間、三重県環境学習センターで行われたMie こどもエコフェアに参加した。この行事は、毎年7月に環境学習センターの主催で行われているもので、よっかだいエコ活動から今年は延べ20名の学生が参加し、竹ぼっくりや竹とんぼなど、竹を用いた遊びを披露した。初日は雨天のため、子どもたちは屋内で竹ぼっくりを楽しんだり、エコ活動のゆるキャラ「イモマン」と仲良く遊んだ。2日目は野外で竹とんぼやエコ活動のキャラクターの塗り絵を楽しんだ。2日間を通した活動は、子どもたちに竹という天然のものに触れてもらい自然に親しんでもらう良い機会となった。

また、エコ活動の学生2名(代表:吉兼知未、副代表:谷口雄紀)と千葉賢教授(環境情報学部)は、6月に三重県庁を訪ね、鈴木英敬知事と面会し、エコ活動の内容説明や活動報告も行っている。



## ソフトテニス部、インカレ出場

8月4日(土)から山口県内で行われた第67回三笠宮賜杯全日本学生ソフトテニス選手権大会に、本学から男女合わせて9ペアが出場した。

その中の石本誠一郎さん(環境情報学部2年)が初めて本学を訪れたのは高校3年生のオープンキャンパス。本人曰く「高校時代はいつも県大会1回戦で負けていた。テニス仲間から四日市大学は東海地区でも強豪と聞き、そんな環境でテニスがしたいと熱望し、入学を決めた。」とのこと。現在は親元を離れ、一人暮らしで文武両道で頑張っている。

今回、人生初の全国大会は初戦敗退とほろ苦い結果に終わったが、この経験を秋からの大会に生かしたいと熱く語った。



これまでのPick Up Topicsはホームページでご覧いただけます。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>

または、四日市大学トップ→大学案内→  
ピックアップ・トピックスをご覧ください。

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>

学校法人 暁学園 四日市大学

【発行】入試広報室

〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200  
TEL:059-365-6711 FAX:059-365-6630